

津久井町の植物

山口一郎

1 はじめに

現在の相模原市は、2006（平成 18）年に津久井郡津久井町と相模湖町の 2 町、その翌年には津久井郡城山町と藤野町が合併し、2010（平成 22）年 4 月に政令指定都市に移行した。これに伴い南区・中央区・緑区という区制が敷かれ、旧津久井町（以下津久井町として表記）は緑区の一部となった（図 1）。

津久井町は県内でも緑豊かな地域である。しかし、津久井町に生育する植物に関する調査はこれまでにあまり行われておらず、神奈川県植物誌調査会や相模原市植物調査会が行った調査が主なものである。

今回発行した津久井町の植物は、津久井町史編さん事業が始まった 1998（平成 10）年から、筆者が津久井町内を歩き、目にした植物を記録し、まとめたものである。本来であれば過去に明らかにされている植物も含め目録化し、津久井町の植物全貌を明らかにするべきところであるが、紙面の都合上筆者が確認できた種類だけを掲載することとした。

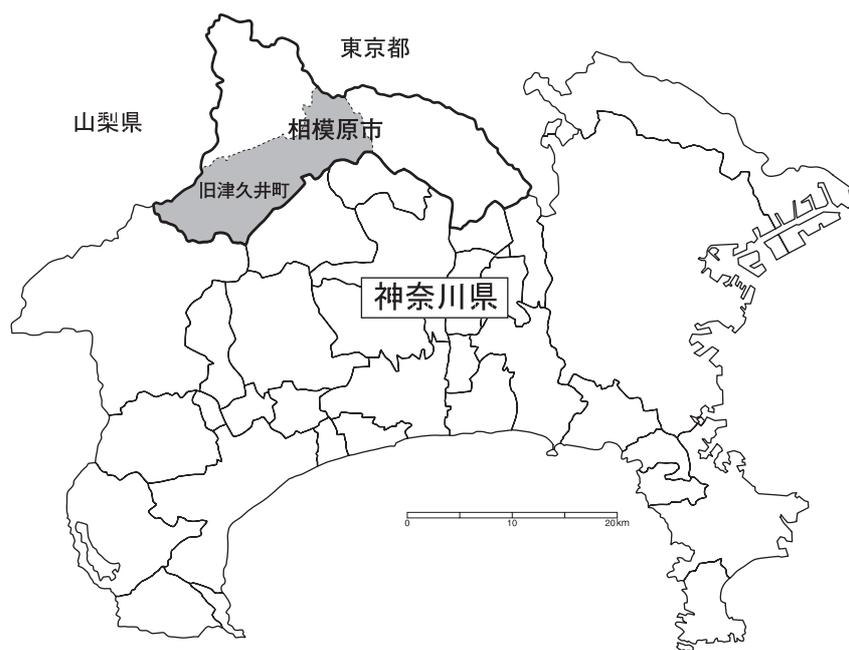


図 1 旧津久井町位置図

2 津久井町の植物相

津久井町はそのほとんどが山地で、丹沢山や蛭ヶ岳、大室山などの丹沢山地稜線部が南側に位置し、その北側には道志川が流れ、旧町域内の約半分が丹沢大山国定公園に占められている。畑地は道志川や串川、相模川の流域に沿ってところどころに見られるが、水田地帯は限られた地域にわずかに存在するのみである。

植物相については津久井町史自然編で記述するため、ここで詳細を述べることは避けるが、次のような区分けで特徴をつかむことが出来る。多くの面積を有する山地では、ブナ林と稜線部が身近

では見ることの出来ない植生を有している。また丘陵地の里山や植林地、人里に近い畑や水田などでも、背後に広がる山地とつながり、津久井町らしい植生となっている。同じことが住宅地の路傍や公園、学校にも言え、旧相模原市では見ることのできない光景となり、それは植生にも反映している。山地と同じくらいの特徴を有するのが、川やその川を形成している溪谷であり、津久井町でははずすことのできない環境となっている。ここでも清流ならでの、また溪谷ならでの植生を見出すことが出来る。

これらの植生の特徴は、地形や標高、温度や湿度、日商の度合いなど、さまざまな自然環境の違いが影響している。

3 津久井町史自然編植物相基礎調査の成果

今回の調査では、129科 638種の植物を確認することができた。秋山（2009）は、旧相模原市の記録をまとめ、165科 1661種を記録している。調査者数や頻度、精度などの違いにより一概に確認種類数を比較することはできないが、緑地が徐々に減少している中、津久井町にはまだ多くの貴重な植物が存在することが確認され、改めて自然豊かな津久井町を認識することができた。

4 おわりに

調査期間は長かったものの、現場に足を進められる日数には限界があり、決して十分といえる調査ではなかった。また植物の種類も多岐にわたるため、不確定な情報を伝えることは出来ず、一人での調査では情報量が少なく対応できない場面も多々あった。

この報告書を受け、さらに過去に得られている情報を加えながら津久井町史自然編が刊行されることとなるが、地域の財産として、また学校教育や生涯教育など教育の場で積極的に活用されることを期待したい。

最後ではあるが、報告書刊行に至るまでには多くの方々より指導・助言をいただき、また地元の方々の温かい協力があったことにお礼申し上げます。

（相模原市津久井町史編集委員会自然部会・相模原市植物誌調査会）

引用文献

秋山幸也, 2009. VII 相模原市の植物. 相模原市史調査報告書 2. 動植物目録, pp. 355-485.